

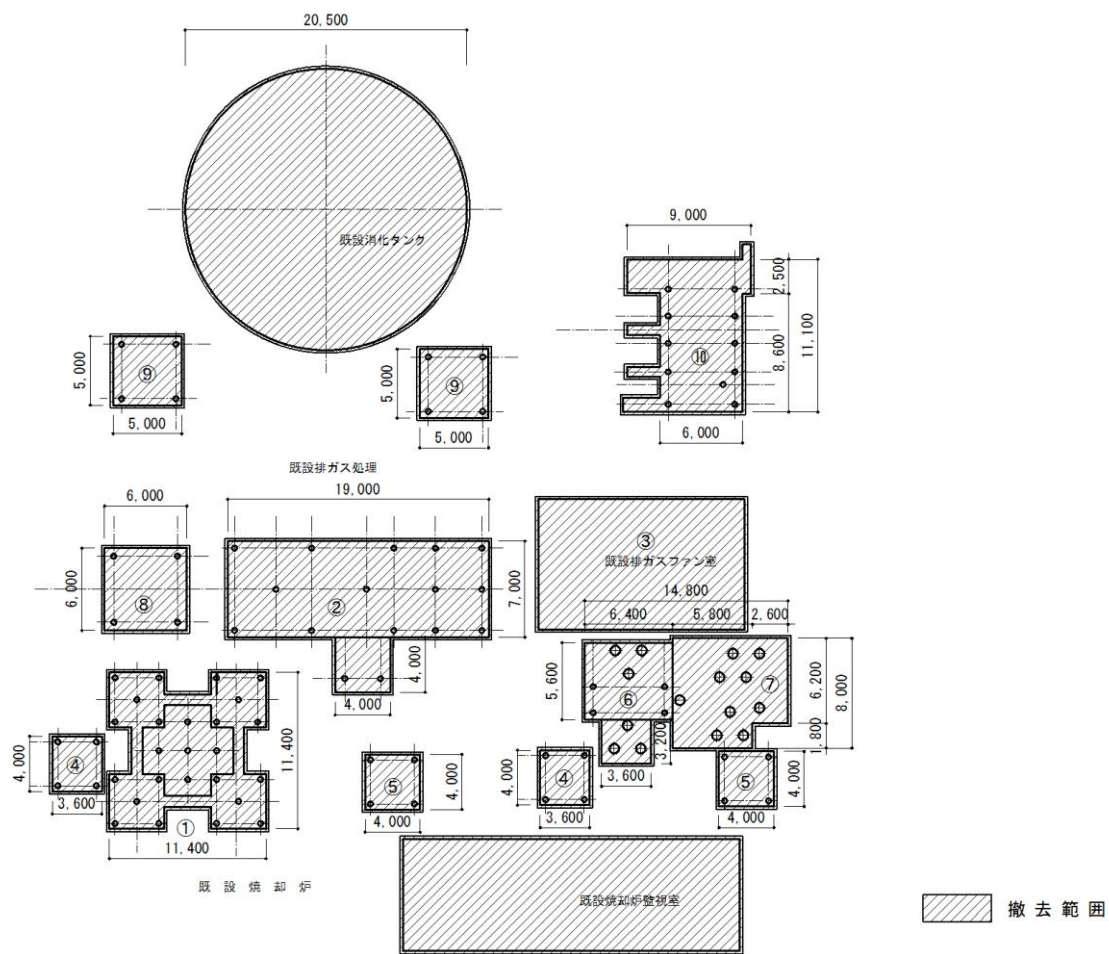


図 7-20(2) 杭基礎等詳細図 (全体)

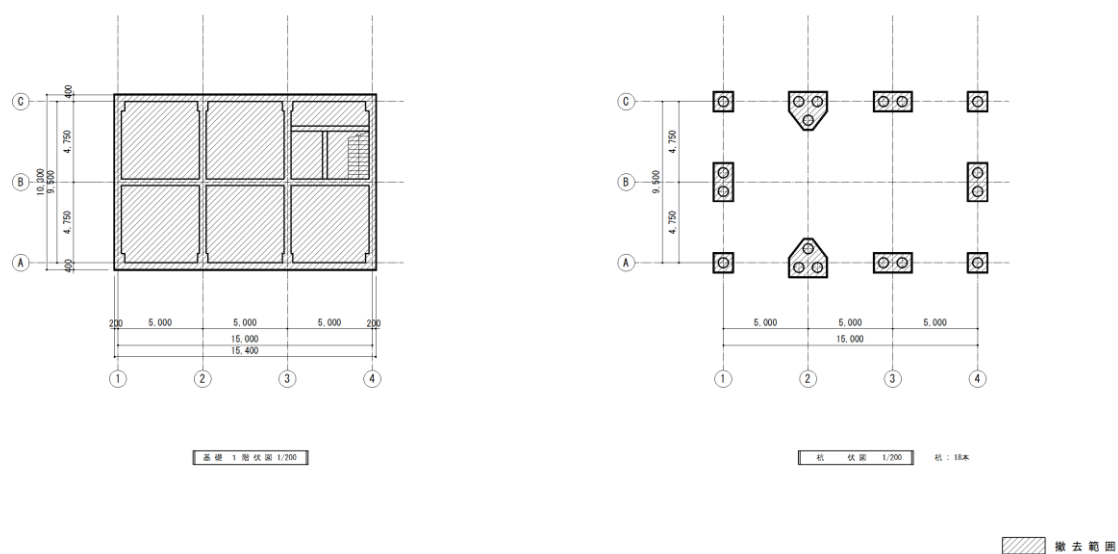


図 7-20(3) 杭基礎等詳細図 (既設排ガスファン室(地下部))

(5) 焼却炉監視室平面・断面図

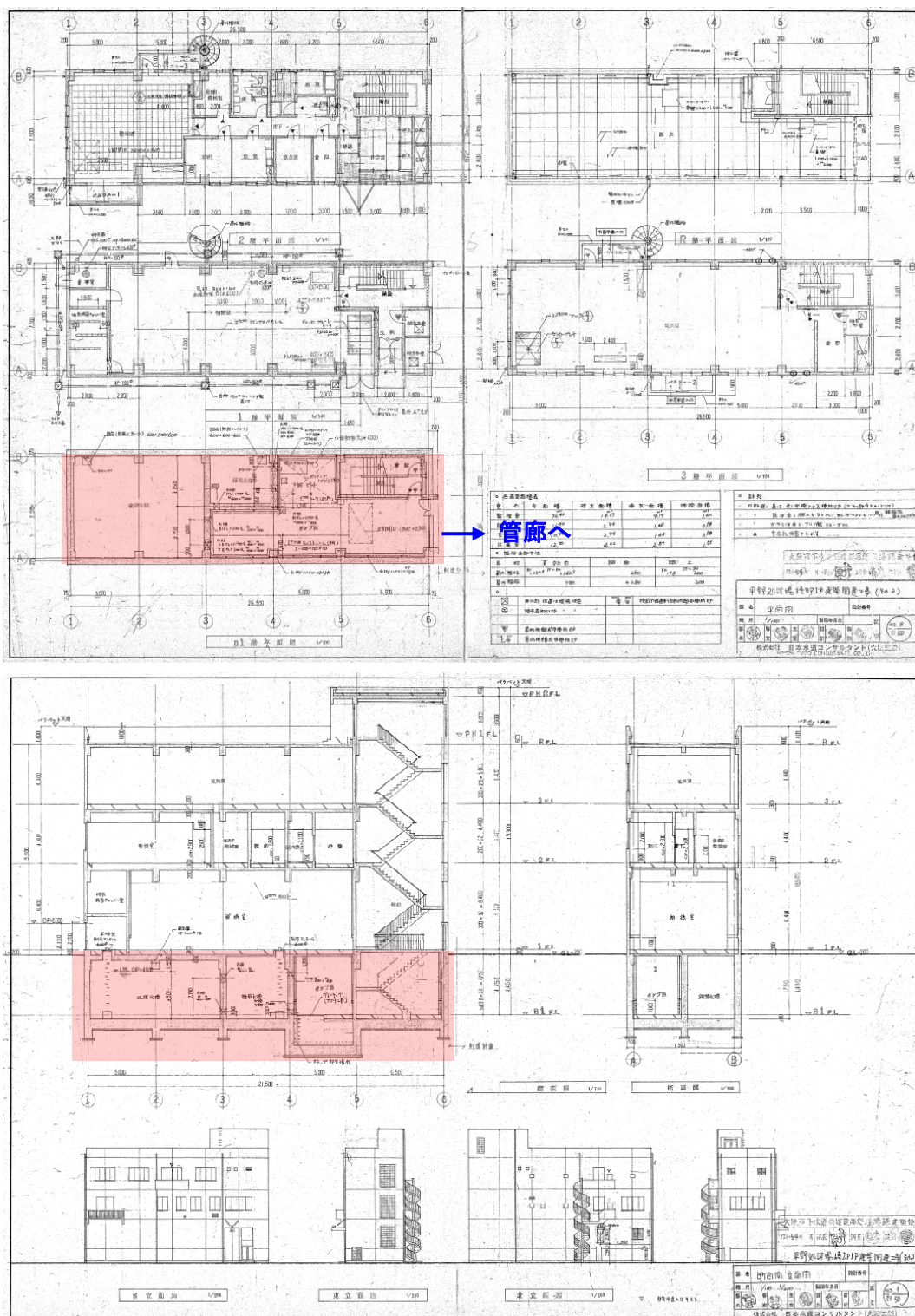


図 7-21 (1) 既設焼却炉監視室平面・断面図(地上部は別事業で撤去済)

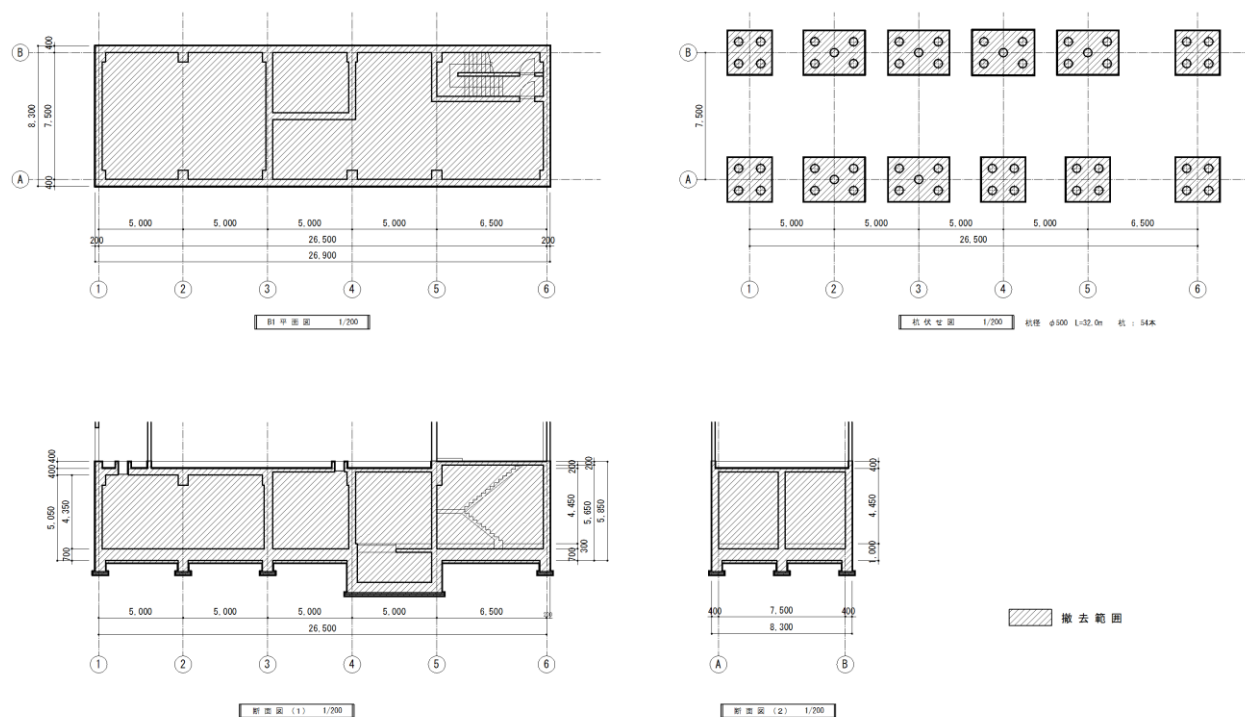


図 7-2 1 (2) 既設焼却炉監視室詳細図

§3 此花下水処理場

(1) 汚泥洗浄槽

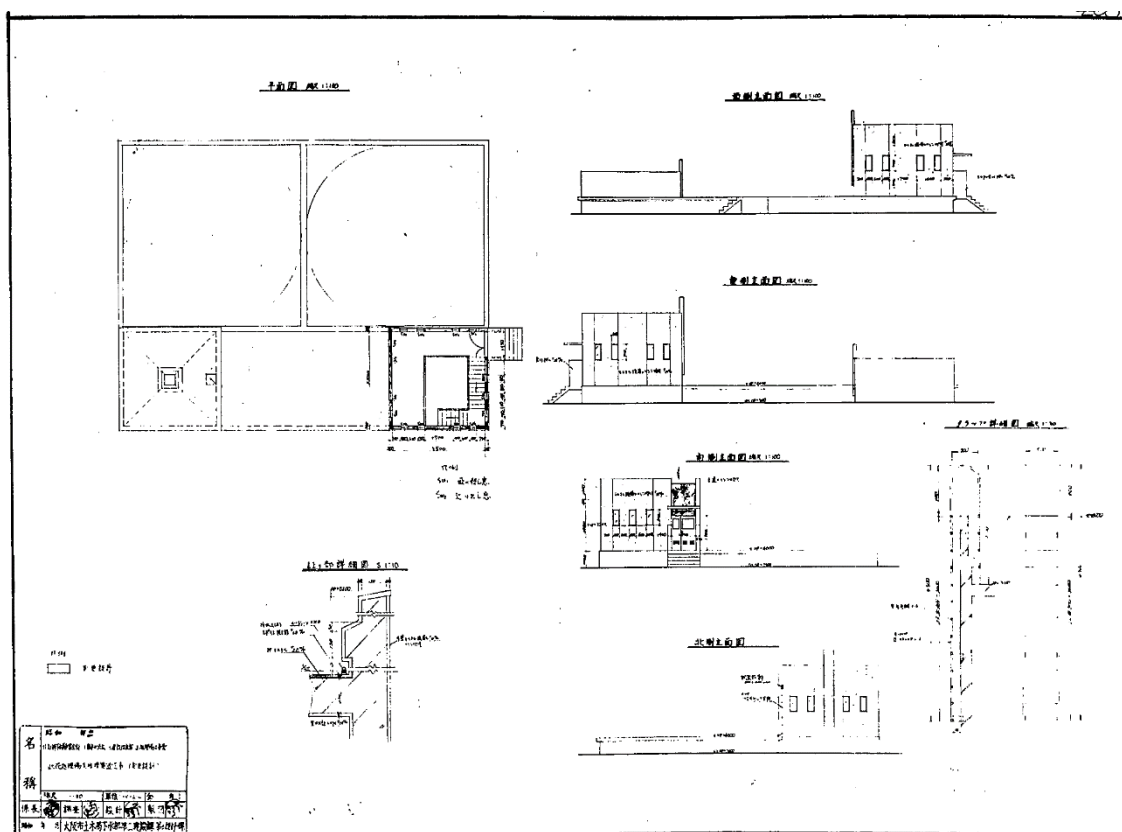
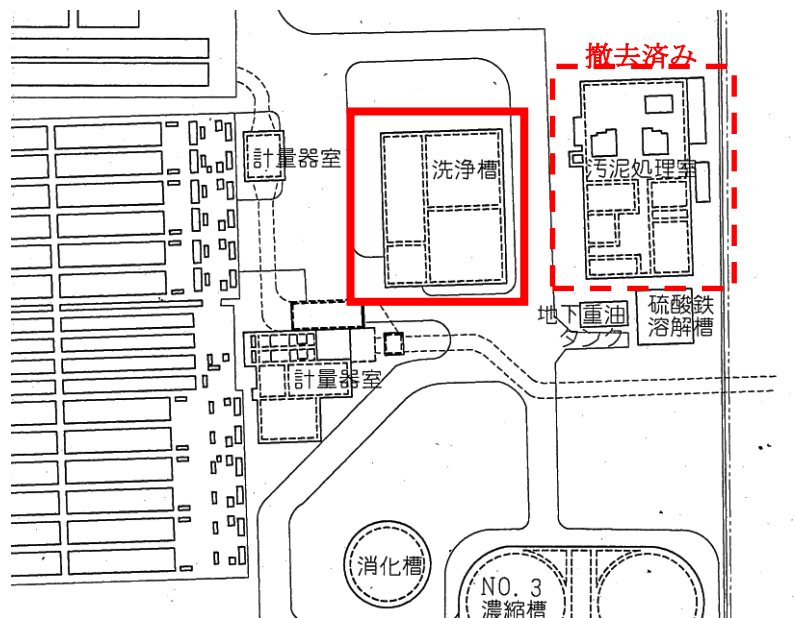


図 7-22 汚泥洗浄槽平面・断面図

8. 温室効果ガス排出量の算出方法

(1) 汚泥資源化施設の運転に伴う温室効果ガスの排出量

温室効果ガス排出量の算出は、汚泥資源化施設の運転（化石燃料、電力由来、システムから排出される一酸化二窒素（ N_2O ）とメタンガス（ CH_4 ）の排出を含む。）の際に発生する温室効果ガス排出量として、次の条件により算出すること。なお、汚泥資源化施設により製造される燃料化物等を利用することで削減できる化石燃料由来の温室効果ガス削減量は次項で別に算出すること。

- ① 温室効果ガスの排出源は、以下のものを考慮する。
 - ・各処理プロセスの電気・燃料等のエネルギー消費に伴う排出。
 - ・施設の運転に伴う各処理プロセスからの一酸化二窒素・メタンガスの排出
 - ・排出量は実績に基づくものとし、その数値根拠を示すこと。対象とする処理プロセスは、施設内の機械・電気設備をすべて対象とするが、施設外との送受泥・用水取水・排水送水分等は除く。
- ② 燃料化物を製造する際に発生する一酸化二窒素（ N_2O ）及びメタン（ CH_4 ）の排出量は、実績に基づいた数値を使用し、二酸化炭素（ CO_2 ）換算を行う。
- ③ 算出に用いる脱水汚泥の処理量は事業者の提案する資源化炉の 1 炉当たりの定格処理量とする。
- ④ 汚泥処理時の CO_2 排出量（ $\text{t-CO}_2/\text{年}$ ）計算書

CO_2 排出源 ^{※1}	CO_2 排出係数	使用量・排出量 ^{※6}	CO_2 排出量 ^{※7}
資源化由来（ N_2O ） ^{※2}	298 $\text{kg-CO}_2/\text{kg-N}_2\text{O}$	〇〇ton- $\text{N}_2\text{O}/\text{年}$	〇〇t- $\text{CO}_2/\text{年}$
資源化由来（ CH_4 ） ^{※3}	25 $\text{kg-CO}_2/\text{kg-CH}_4$	〇〇ton- $\text{CH}_4/\text{年}$	〇〇t- $\text{CO}_2/\text{年}$
燃料 ^{※4※5}			
灯油	2.49 $\text{kg-CO}_2/\text{l}$	〇〇kl/年	〇〇t- $\text{CO}_2/\text{年}$
軽油	2.58 $\text{kg-CO}_2/\text{l}$	〇〇kl/年	〇〇t- $\text{CO}_2/\text{年}$
A 重油	2.71 $\text{kg-CO}_2/\text{l}$	〇〇kl/年	〇〇t- $\text{CO}_2/\text{年}$
液化石油ガス（LPG）	3.00 $\text{kg-CO}_2/\text{kg}$	〇〇ton/年	〇〇t- $\text{CO}_2/\text{年}$
液化石油ガス（LNG）	2.70 $\text{kg-CO}_2/\text{kg}$	〇〇ton/年	〇〇t- $\text{CO}_2/\text{年}$
都市ガス	2.29 $\text{kg-CO}_2/\text{m}^3$	〇〇k $\text{m}^3/\text{年}$	〇〇t- $\text{CO}_2/\text{年}$
電力	0.318 $\text{kg-CO}_2/\text{kWh}$	〇〇MWh/年	〇〇t- $\text{CO}_2/\text{年}$
合計（製造時）（=①）			〇〇t- $\text{CO}_2/\text{年}$

※1 CO_2 排出源は、下水汚泥資源化物の製造に伴う燃料等のエネルギー消費とします。また、施工およびリサイクルに伴う排出量は加算しないこと。

※2 下水汚泥資源化物を製造する際に発生する一酸化二窒素（ N_2O ）の排出係数（ $\text{kg-CO}_2/\text{t-脱水汚泥}$ ）は実績に基づいた数値を使用し、算出は下記のとおりする。

一酸化二窒素（ N_2O ）の排出係数（ $\text{kg-CO}_2/\text{t-脱水汚泥}$ ）